

## 修士課程

### 1. 履修上の注意

#### (1) 修了所要単位について

科目区分	修了所要単位
修士論文による修了の場合	30 単位以上修得 (自専攻科目 20 単位以上含む)
リサーチペーパーによる修了の場合	34 単位以上修得 (自専攻科目 24 単位以上含む)

#### (2) 必修科目の履修について

- ・「国際文化研究 A・B」は必修科目であり、1 年次に履修してください。
- ・「国際文化共同研究 A・B」は必修科目であり、修士論文またはリサーチペーパーの提出予定年次に履修してください。

#### (3) 「修士論文演習 A・B」の履修について

- ・修士 2 年において、指導教員の担当する「修士論文演習 A・B」を履修登録してください。
- ・リサーチペーパーをもって修士論文に代える場合も「修士論文演習 A・B」を履修登録してください。

#### (4) 「Oral Presentation」「Thesis Writing A・B」の履修について

- ・国際文化専攻で必要とする英語運用能力習得のために履修してください。

#### (5) 「国際文化研究日本語論文演習 A・B・C」の履修について

- ・留学生は学位論文執筆に必要な日本語運用能力習得のために 1 年次に「国際文化研究日本語論文演習 A・B」を、2 年次に「国際文化研究日本語論文演習 C」を履修してください。

#### (6) 大学院研究科共通科目「日本語論文作成 A・B」について

- ・留学生を対象とした日本語論文作成のための科目です。受講希望者は本要項の「大学院研究科共通科目」の項を参照してください。
- ・この科目の単位を修得しても修了所要単位に含まれませんのでご注意ください。

#### (7) 入学時に長期履修制度を申請された方へ

入学時に長期履修申請をされた方で、何らかの理由により履修計画を短くして修了を希望される場合は、修士論文予備登録時に「長期履修計画変更申請書」を提出してください。その書類をもとに財務課より学費差額分追加徴収の納付書が送付されますので、届き次第速やかに振込んでください。

なお、申請書提出後は再度長期履修制度に戻ることはできません。履修計画の変更についてはよく検討の上、決定するようにしてください。

#### (8) 本学国際文化学部を卒業した方へ

本学国際文化学部卒業生の方で、学部在学中に大学院の履修をし、単位修得をした方は、国際文化研究科進学後に再度、同科目を履修し単位を修得することが可能です。

#### (9) 「外国語実践研究 A・B」について

この科目は学部授業と合同で行われます。受講をするためには授業担当教員による許可が必要となりま

す。初回授業に出席し、受講許可を得てください。受講許可がない限り、単位を修得することはできません。また、既習の内容と異なると教員が判断をした場合は、連続・重複履修が可能です。学部時代を含め、過去に本科目の受講履歴がある場合は、受講許可にあたって「成績通知書」等で受講履歴を提示してください。なお、本科目は履修者数に制限が設けられており、学部生の受講が優先されます。そのため、大学院生が受講許可を得ていたとしても、学部生の履修登録期間後に受講不可となり、対象者に連絡が入る場合があります。

## 2. 授業科目一覧

【連続】：前年度までに単位を修得した後も続けて履修できる科目

【重複】：同じ年度に同じ名称の科目を複数履修できる科目

【他専攻】：他専攻の学生が履修できる科目

授業科目	単位	連続	重複	他専攻	備考
国際文化研究 A	2				1年次に履修すること
国際文化研究 B	2				1年次に履修すること
国際文化共同研究 A	2				修士論文（リサーチペーパー）提出予定年次に履修すること
国際文化共同研究 B	2				修士論文（リサーチペーパー）提出予定年次に履修すること
多言語相関論 I A	2	○		○	
多言語相関論 I B	2	○		○	
多言語相関論 III A	2	○		○	
多言語相関論 III B	2	○		○	
多言語相関論 IV A	2	○		○	
多文化相関論 I A	2	○		○	
多文化相関論 I B	2	○		○	
多文化相関論 II A	2	○		○	
多文化相関論 II B	2	○		○	
多文化相関論 III	2	○		○	
多文化芸術論 I A	2	○		○	
多文化芸術論 I B	2	○		○	
多文化芸術論 II	2	○		○	
異文化社会論 I A	2	○		○	
異文化社会論 I B	2	○		○	
異文化社会論 II A	2	○		○	
異文化社会論 II B	2	○		○	
マイノリティ社会論 A	2	○		○	
ジェンダー論	2	○		○	
多言語社会論 A	2	○		○	
多言語社会論 B	2	○		○	
多民族共生論 I A	2	○		○	
多民族共生論 I B	2	○		○	
多民族共生論 II A	2	○		○	
多民族共生論 II B	2	○		○	
国際ジャーナリズム論	2	○		○	
国際文化交流論 II A	2	○		○	
比較宗教文明論	2	○		○	

授業科目	単位	連続	重複	他専攻	備考
多文化情報空間論 I A	2	○		○	
多文化情報空間論 I B	2	○		○	
多文化情報メディア論 I A	2	○		○	
多文化情報メディア論 I B	2	○		○	
多文化情報メディア論 II	2	○		○	
外国語実践研究 A (英語)	2	○	○		学部「英語アプリケーションⅨ」と合同
外国語実践研究 A (ドイツ語)	2	○	○		学部「ドイツ語アプリケーション <sup>②</sup> 」と合同
外国語実践研究 A (ロシア語)	2	○	○		学部「ロシア語アプリケーション <sup>①</sup> 」と合同
外国語実践研究 B (ロシア語)	2	○	○		学部「ロシア語アプリケーション <sup>②</sup> 」と合同
Thesis Writing A	2	○		○	
Thesis Writing B	2	○		○	
Oral Presentation	2	○		○	
国際協力論	2	○		○	
国際人権論	2	○		○	
国際文化研究日本語論文演習 A	2	○		○	なるべく1年次に履修すること
国際文化研究日本語論文演習 B	2	○		○	なるべく1年次に履修すること
国際文化研究日本語論文演習 C	2	○		○	なるべく2年次に履修すること
修士論文演習 A	2	○			2年次に履修すること
修士論文演習 B	2	○			2年次に履修すること

### 3. 講義概要について

授業科目の講義概要および教員の主要研究業績については、Web シラバスを参照してください。

Web シラバス URL : <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

## 博士後期課程

### 1. 履修上の注意

国際文化研究科では、2017年度より、博士後期課程においてコースワーク制および授業科目の単位制を導入しました。

#### (1) 修了所要単位

履修区分	修了所要単位
論文指導科目（必修科目）	12 単位以上修得
選択必修科目	3 単位以上修得
博士論文	
合計	15 単位以上修得

※課程修了には、上記の単位の修得のほか、博士論文審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。審査基準は別途提示します。

#### (2) カリキュラムおよび履修上の指示

履修区分	履修年次	履修期	科目名	単位	修了所要単位	
論文指導科目 (必修科目)	1 年次	春学期	博士論文演習Ⅰ A	2	12 単位以上 (修了所要単位に含める ことができるのは12 単 位まで)	計 15 単位 以上
		秋学期	博士論文演習Ⅰ B	2		
	2 年次	春学期	博士論文演習Ⅱ A	2		
		秋学期	博士論文演習Ⅱ B	2		
	3 年次～	春学期	博士論文演習Ⅲ A	2		
		秋学期	博士論文演習Ⅲ B	2		
選択必修科目	1 年次	春学期	博士ワークショップⅠ A	1	少なくともどちらか 1 科目を履修	
		秋学期	博士ワークショップⅠ B	1		
	2 年次	春学期	博士ワークショップⅡ A	1	少なくともどちらか 1 科目を履修	
		秋学期	博士ワークショップⅡ B	1		
	3 年次～	春学期	博士ワークショップⅢ A	1	少なくともどちらか 1 科目を履修	
		秋学期	博士ワークショップⅢ B	1		

#### (3) 論文指導科目の履修について

論文指導科目（博士論文演習）は、12 単位を超えて修得した単位は修了所要単位に含めることができません。また、指導教員が担当する論文指導科目のみ履修することが可能です。副指導教員その他の教員が担当する論文指導科目は履修できません。

#### (4) 博士ワークショップについて

- 毎年度1科目以上を履修してください。
- 履修者は、履修した学期の修士課程開設科目「国際文化共同研究 A」もしくは「国際文化共同研究 B」に少なくとも5回討議参加者(ディスカッサント)として出席し、レポートを提出することが求められます。また、履修した学期の発表会(構想発表会もしくは中間発表会)で、他の院生の発表へのコメントを文書で提出することが求められます。
- 履修者は、履修した学期の発表会で研究報告を行います。研究報告は3段階のステップからなり、ステップ1(博士ワークショップⅠ)では「論文プロポーザル」、ステップ2(博士ワークショップⅡ)では「先行研究分析報告書」、ステップ3(博士ワークショップⅢ)では「博士論文を構成する章」を、事前に主指導教員ならびに副指導教員に提出し承認を得た上で発表することが求められます。
- 2019年以降の入学者の場合、ワークショップ科目は成績がP(合格)/F(不合格)で評価されます。

#### (5) 連続履修について

博士後期課程の科目は連続履修が可能ですので、標準修業年限(3年)を超えて在学する学生は、必修科目、選択必修科目ともに、3年次用の科目(ⅢAとⅢB)を連続して履修してください。

#### (6) 修士課程設置科目の履修について

修士課程設置科目は修了要件には含まれませんが、自由に履修することができます。他専攻が設置する修士課程設置科目についても同様です。

## 2. 授業科目一覧

授業科目	単位	備考
博士論文演習ⅠA	2	
博士論文演習ⅠB	2	
博士論文演習ⅡA	2	
博士論文演習ⅡB	2	
博士論文演習ⅢA	2	
博士論文演習ⅢB	2	
博士ワークショップⅠA	1	
博士ワークショップⅠB	1	
博士ワークショップⅡA	1	
博士ワークショップⅡB	1	
博士ワークショップⅢA	1	
博士ワークショップⅢB	1	

## 3. 講義概要について

授業科目の講義概要および教員の主要研究業績については、Webシラバスを参照してください。

Webシラバス URL : <https://syllabus.hosei.ac.jp/>